

備前市 事務事業評価シート

(平成23年度事業)

事業の概要			根拠法令・例規等	下水道法
事業開始年度	S 6 2 ~			
総合計画	大項目 基本目標	01	安全で快適に暮らせるまちづくり	
	中項目 基本施策	01	生活しやすいまちづくり	
	小項目 施策	10	下水道	
事務事業名	03	雨水施設整備事業		
		問 担当課(室)	下水道課	
		合 職・氏名	工務係長 小川勝巳	
		先 電 話	(0869)66-9702	
		このシート作成に要した時間	4.0 時間	

事業の目的		Plan
対象 (誰・何に対して)	吉永排水区内の現認可区域内 (9 2 . 5 ha) 全ての住民・家屋等。	事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価
目的 (何のために)	梅雨・台風等の集中豪雨による浸水被害を解消する。	
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	年次的な計画により主要な管渠を整備し、梅雨・台風等の集中豪雨による浸水被害を解消する。	

事業の実績			Do	
目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明		優先度
	管渠整備事業	浸水対策のため、認可区域内の雨水管渠を計画に基づき順次整備した。		
	水道管外移設補償事業	管渠整備事業実施に伴い、支障となる電気・通信等施設の移転補償を行った。		

事業費等	単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
事業費	千円	131,357	9,127	37,383
必要人員	人	0.41人	0.13人	0.18人
事業費	千円	134,534	10,128	38,650
決算額	国 県 支 出 金	57,600		10,000
	受 益 者 負 担	3,590		
	繰 入 金			
	市 債	71,300	8,300	23,500
	その他()			
一 般 財 源		2,044	1,828	5,150
受 益 者 負 担 比 率	%	2.7%	-	-

結果指標	結果指標名	単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
結果指標	主要管渠延長	説明	当該年度に整備した主要雨水渠の延長		
	結 果 指 標 量	m	142	39	71
	対 前 年 比	%	-	27.5%	182.1%
	活 動 コ ス ト	円	134,534,000	5,298,300	37,165,588
	単 位 当 た り コ ス ト		947,423	135,854	523,459

事業の成果					
成果指標名	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度目標値
主要管渠整備率	目標値(A)	90.0	90.5	91.0	92.0
	実績値(B)	90.1	90.5	91.2	到達目標値
	達成率(B/A)	100.11%	100.00%	100.22%	100.0
成果指標設定の考え方・式や説明					
当事業の評価は認可区域の整備状況(進捗率)としており、主要管渠の整備率を成果指標とする。 主要管渠整備率(%) = 主要管渠整備累計(m) / 計画主要管渠総延長(10,320.00m) × 100 = 9,413.8 ÷ 10,320.0 × 100 = 91.2					

事務事業の評価	該当する項目を から へ く 「コピー」して「貼り付け」してください	Check
妥当性の評価	市の関与の 必要性 市民ニーズ	妥当性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い B
効率性の評価	コスト 手段	効率性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い B
有効性の評価	目的達成度 市民参画度	有効性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い B

進行年度 (H24年度) の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	引続き、整備の効率化及びコスト削減を図りながら、現認可区域内の主要管渠の早期完了を目指す。						

総合評価	
雨水渠の整備は災害を未然に防止するにあたり非常に有効である。また近年ではゲリラ豪雨による局地的な災害も発生していることから、浸水等災害の発生する可能性の高い箇所や幹線管渠等の事業効果の高いものから順次整備する必要がある。	総合評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い B

平成25年度の方向性・取組目標							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
取組目標	引続き、整備の効率化及びコスト削減を図りながら、現認可区域内の主要管渠の早期完了を目指す。						

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストを留意しながら効率性を評価

事業の目的やその効果を指標に留意しな